令和８年度第１回広島市食育推進会議　会議要旨

１　開催日時
令和８年９月３０日（水）１９：００～２０：２０

２　開催場所
広島市役所１４階　第７会議室

３　出席者
⑴　委員（１６名）
渡部委員、篁委員、高蔵委員、下條委員、小畠委員、濱岡委員、元廣委員、福田委員、
谷迫委員、迫本委員、満田委員、浦田委員、畑田委員、加納委員、重藤委員、渡邊委員

⑵　事務局（１２名）
（健康福祉局）
保健医療担当局長、保健部長、参与(事)健康推進課長
（市民局）
生涯学習課長
（こども未来局）
こども未来調整課長（代理）、幼保企画課保育園運営指導担当課長（代理）、
こども青少年支援部母子保健担当課長（代理）
（環境局）
環境政策課長
（経済観光局）
農政課長、水産課長
（教育委員会）
健康教育課長、指導第一課長

⑶　オブザーバー
広島県健康福祉局健康づくり推進課　主任
広島市南区厚生部地域支えあい課　地域支援担当課長

４　公開・非公開の別
公開

５　傍聴人
０名

６　議事
⑴　第４次広島市食育推進計画の評価及び課題について
⑵　第５次広島市食育推進計画の骨子案について
⑶　その他

７　配付資料

資料１　　第４次広島市食育推進計画について
資料２　　第４次広島市食育推進計画の評価について
資料３　　令和８年度食育に関する調査結果（速報）について
　資料３－別紙　令和８年度食育に関する調査　項目ごとの集計結果（速報）
資料４　　第４次広島市食育推進計画における評価指標ごとの達成状況等
資料５　　第５次広島市食育推進計画　骨子（案）
資料６　　第５次広島市食育推進計画　策定スケジュール
参考資料１　第４次広島市食育推進計画（概要版）
参考資料２　令和８年度本市が関わる食育推進プログラム一覧
参考資料３　第５次食育推進基本計画　概要（農林水産省資料）

８　会議要旨

⑴ 第４次広島市食育推進計画の評価及び課題について

渡部副会長

第４次広島市食育推進計画の評価及び課題について、事務局から説明をお願いする。
（事務局から、資料１～４に基づき説明）

渡部副会長

事務局からの説明について、意見や質問はあるか。なお、評価結果では、大学生や一人暮らしを含む若い世代に課題が見られる。今後の課題として示された「行動変容を促す食育の推進」について、食育推進会議の委員において実施できそうなことなど、若い世代への効果的な働きかけや具体的な取組に関する事務局の考えを伺いたい。

事務局

20 歳代及び 30 歳代の若い世代に対しては、進学や就職等の生活環境が変化する時期を捉えた働きかけや職域を通じた啓発をしていく必要があると考えている。また、SNS 等を活用した情報発信にも取り組んでいるが、第５次計画の策定に当たり、本日の会議で若い世代へのより効果的な働きかけについて意見を頂きたい。

加納委員

20 歳代女性の朝食摂取率が中間実績値から大きく改善しているが、要因として考えられることはあるか。

事務局

明確な要因は把握できていない。今後、どうすれば把握できるかを含めて考えたい。なお、国でも同様の傾向が見られ、食に対する価値観、ライフイフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や物価高騰等により健全な食生活を実践することが困難な場面が増えたことが要因の１つと考えられている。

重藤委員

評価結果は全国的な傾向と同様か。広島市に特有な部分はあるか。

事務局

全国と同様の傾向である。

渡部副会長
　郷土料理や広島の食文化の理解と伝承に係る評価指標が目標を達成したことに関連して、特徴的なことはあるか。

事務局
　郷土料理のイメージが湧きにくい人もいると考え、今回の調査では郷土料理の例としてお好み焼きを記載した。このことが結果に影響した可能性がある。

下條委員
　20 歳代女性の朝食摂取割合が向上していた要因の１つとして、最近、SNS で注目を集めている朝食に関するコンテンツの影響が考えられる。内容としては、一流アーティスト等が朝食を作り、食べ、片付ける等の日常的な朝食風景を映したものである。特殊なものを作っているわけではなく淡々と料理しているものであるが、主な視聴者層である 20 歳代から 30 歳代の女性における朝食への関心や意識向上に影響を与えている可能性がある。

事務局
　紹介いただいたコンテンツを拝見し、啓発の参考にしたい。

小畠委員
　大学生の食生活の改善には、学生のニーズに合った魅力的な学食づくりが重要である。学食の利用促進により、栄養バランスのとれた食事を少なくとも１日１食確保できることから、各大学において学食の工夫や充実を行う必要があると考える。

渡部副会長
　私も御意見を受け止めるとともに、事務局からの声も頂いて、大学側も変わっていくことができればと思う。事務局の考えがあればお願いする。

事務局
　市内には多くの大学があることから、本会議を通じて情報収集したい。

小畠委員
　おそらく、大学としては、コンビニを利用する学生が多く、学食の利用が進まない状況がある中で、学食に十分な経費をかけることが難しい状況がある。その点が大きな課題ではないかと感じている。

渡邊委員
　大学では低価格の朝食提供やフードトラックの導入などの取組が進められ、若い世代が朝食を食べる機会が増えていると思う。一方で、学生自身が選択した学食の栄養バランスが確認できるアプリもあるが、十分活用されていない状況がある。

事務局
　大学の取組として参考にしたい。

渡部副会長
　様々な情報を提示いただいたので、今後、大学の学食の変化を見守っていきたい。また、本学としても検討していきたい。

⑵　第５次広島市食育推進計画の骨子案について

渡部副会長

第５次広島市食育推進計画の骨子案について、事務局から説明をお願いする。

（事務局から、資料５に基づき説明）

渡部副会長

事務局からの説明について、意見や質問はあるか。

元廣委員

国の計画で栄養教諭について記載されているが、広島市における今後の栄養教諭の配置計画があれば教えてほしい。なお、広島県栄養士会では、今年初めて、商業高校からの依頼を受け、卒業後の食や栄養に関する講義を実施する。大学進学者だけでなく、社会人になる生徒も対象にしており、成人前の高校生に、ハードルが高くない手軽で実践しやすい方法を紹介する予定である。

事務局

現在、本市では、法令の定数を上回る栄養教諭を配置している。また、国の制度における加配の定数や既存の他の教員の定数も活用しながら手厚い配置を行っている。今後の具体的な配置計画は、少子高齢化等に伴う定数の変動もあることから、現時点で示すことは難しいが、食育の重要性を踏まえ、必要な配置に努めていく考えである。

福田委員

一部の市町村では、学校給食における牛乳の選択制が導入され、食物アレルギー等の明確な理由がなくても、保護者が牛乳の提供の停止を求めることができるようになっている。その背景に、SDGs やフードロスの考え方が消費者に都合良く解釈されている問題がある。

若い世代ではタイパ・コスパを重視している。なお、若い女性の朝食摂取割合が増加したのは、SNS も影響していると思うが、ある種の健康美の風潮の高まりが関係していると考える。保護者世代を含め、大人への食育が十分でなかったことが課題である。

一方で、企業による健康的な食選択を促す取組が行われており、生産現場では安心・安全な農産物を提供するために多くの努力を重ねているが、若い世代には、食料安全保障や食料危機に対する危機感が十分に伝わっていない。デリバリーサービスが普及し、食について考える時間や手間をお金で買う時代になっている。そのため、学校教育の現場を中心に、SDGs やフードロスを正しく理解してもらうための食育を強化する必要がある。

渡部副会長

確かに、若い世代に正しい情報が伝わっていない現状がある。今回の調査では、正しい知識を得るために充実してほしい方法として、スーパーマーケットなど食品販売店等の店頭での情報発信が挙げられていた。広島県スーパーマーケット協会における取組について共有していただきたい。

迫本委員

フレスタでは、大学生と連携した啓発活動や SNS による情報発信を実施している。若い世代には、将来の健康ではなく、「今の自分のパフォーマンス向上」という視点のほうが響きやすく、同世代からの発信は共感を生み、行動変更につながりやすいと感じている。今の多様なライフスタイルの中で、等身大の自分達にもできることを大学生達と一緒に考えて実施している。なお、食の情報がファッション化、エンタメ化している中で、店頭での

啓発の難しさも感じているが、現在、広島市と野菜や朝食に関する POP による啓発も実施している。
一方で、学生からは「何を食べたら良いか分からない」という声も多く、幼少期から食を選ぶ力を育むことの重要性を感じている。なお、フレスタでは、こどもを対象にした料理教室やイベントの依頼があった際には、保護者にも参加を呼びかけ、親子で食について考える機会を大切にしている。しかし、イベントには食に関心が高い方が集まりやすい傾向があり、無関心層へのアプローチが課題だと感じており、行政と連携しながら、より幅広い層に情報を届けていきたい。

渡部副会長
情報が届いていない層に、どのように届けていくかということが課題だと感じた。先ほど、元廣委員から大学生よりも前の高校生に対して、ハードルを低くして伝えることについて共有いただいた。また、福田委員から小学生の段階から伝えていくことも大切ではないかという意見があり、本日の会議では、あらゆる場面を使ってどう発信していくのかというのが課題として多く出たと感じている。
本日の会議で情報共有して、次につなげていければと思うが、その他に何かあるか。

下條委員
PTA 主催イベントにおいて、講師として来ていただくことは可能か。

迫本委員
当社としては協力したいが、教育現場では企業による営業と受け取られやすく難しい現状もあるため、行政を介した連携の機会があるとありがたい。

下條委員
PTA 会員には多様な職種の保護者がおり、そのネットワークを活用して専門家等を招いた講演会やイベントを実施している。そのため、PTA 協会と連携し、講演会等を開催することは可能であると思う。

迫本委員
連携の機会があればありがたい。

渡部副会長
日本チェーンストア協会として取組等があれば共有いただきたい。

満田委員
弊社でも、広島県等と連携し、朝食摂取や野菜摂取の促進に向けた啓発活動を行っている。また、新たに、安田女子大学と連携し、食品ロス削減について消費者や従業員の意識向上に取り組む予定である。

渡部副会長
本日は、若い世代の意見が企業で積極的に取り上げられていることを共有できた。また、様々な場面でお互いの発信ができる可能性も見えてきた。今後、こうした取組やつながりを活かし、第５次広島市食育推進計画が素晴らしいものになることを期待する。
今後の進め方について、事務局から説明をお願いする。

事務局

本日の議論を踏まえ、事務局で具体的な内容について整理し、第２回目の会議で計画の素案を提示する。

渡部副会長

事務局からの説明のとおり進めることとしてよいか。

（異議なし）

⑶　その他

渡部副会長

資料６について、事務局から説明をお願いする。

（事務局から、資料６に基づき説明）

渡部副会長

事務局からの説明について、質問や意見はあるか。

（意見等なし）

事務局

活発な御意見を頂き感謝する。次回は１１月２７日に開催する予定であるため、よろしくお願いしたい。